

ここに場違いな 場所はない

大学宗教主任 森島 豊



ルカによる福音書第13章6-9節

それから、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。切り倒してしまえ。なぜ、土地を無駄にしておくのか。』園丁は答えた。『ご主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。もし来年実を結べばよし、それで駄目なら、切り倒してください。』」

はじめての場所

新しい環境に入ると、その場にいることが辛いと感じることがあります。私にも、そんな経験がありました。

あれは、高校の入学式の日でした。私が通っていたのは中高一貫の私立学校です。高校生になったその日も、中学のときと同じように学校に向かいました。しかし、入学式が始まると、私は早く家に帰りたくて仕方がありませんでした。なぜなら、私だけが間違えて中学校の制服を着てきてしまったからです。会場の中で、私だけが明らかに浮いていました。「早くこの場から去りたい」。

まあ、これは単なる私のうっかりミスですが、その学校に転校してきた中学3年生のときは、もっと辛い経験を何度もしました。田舎から都会の学校へ転校した私は、周囲の生徒たちと住む世界や価値観がまるで違い、なかなか馴染めませんでした。

まず、みんなの会話についていけませんでした。私が住んでいた田舎町と都会では生活の感覚が異なり、努力ではどうにもならない世界の違いがあることを突きつけられたのです。自分が惨めで、情けなくて、悔しくて、何度も「私はここにいてもいいのだろうか？ここは私には場違いなのではないか」と自問しました。そんな私を支えてくれたのが、ある聖書の物語でした。

イチジクの木

ルカによる福音書の13章に、切り倒されそうになっているイチジクの木が登場します。3年間も実を結んでいないのです。このイチジクの木がなぜ実をつけなかったのか、その理由は書かれてありません。しかし、もしかすると植えられた場所が適していなかったのではないかと思います。なぜなら、このイチジクの木はぶどう園に植えられていたのです。本来、ぶどうを育てる場所に、イチジクの木が植えられていたのです。どう考えても場違いだったのではないのでしょうか。もし、このイチジクの木に意思があったとしたら、きっとこう思ったことでしょう。「どうして自分はここにいるのだろうか？」。

そんなふうに思うのは、この木だけではありません。結果を出せない場所にいると、容赦ない言葉が飛び交います。「切り倒せ」「邪魔だ」「場所が勿体無い」。当然のことです。生産性のないものは、利益を減らすだけの存在だからです。しかし、その木を世話してきた園丁は言いました。「今年もこのままにしておいてください。私が面見します。木の周りを掘り、肥やしを施します。だから、もう一年だけ、このままにしておいてください」。

あなたにしか咲かすことができない花

私は、転校先の学校で心が折れそうになっていたとき、決して私を見捨てなかった先生がいました。自分ではもう諦めていたのに、その先生は最後まで寄り添い、励ましてくださいました。「あなたの経験は面白い。あなたはあなたのままでいい」そう教えてくれた先生がいたのです。その言葉に支えられ、私はようやく自分の花を咲かせる勇気を持つことができました。「自分にしか実らせることのできないものを、堂々と実らせていい」そう教わりました。さらに、その実りは自分だけでなく、周囲の人をも喜ばせることができるということにも気づきました。そのとき初めて、私はこの場所にいる意味があるのだと実感できたのです。

青山学院に入学し、周りについていけないと感じることもあるかもしれませんが。自分だけが違うと感じて、惨めな思いをすることもありますが。でも、大丈夫です。あなたは一人ではありません。神様が、いつもあなたと共におられます。そのお方は、決してあなたを見捨てることはありません。必ずあなたを立派に育ててくださいます。だから、安心してください。青山学院には、「場違い」な場所はありません。あなたは、ここにいていいのです。神様があなたをこの場所に置いてくださったのです。さあ、あなたの花を咲かせましょう！